

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

問題一覧

1

$xy$  平面上の曲線  $y = \frac{1}{2}x^2$  に、点  $(a, \frac{1}{2}a^2)$  ( $a > 0$ ) で接する円のうち、 $y$  軸の正の部分にも接するものを  $S_a$  とおく。  $a$  が正の実数を動くときの  $S_a$  の中心の軌跡を  $C$ 、とくに  $S_1$  の中心を  $P$  とする。

- (1) 点  $P$  の座標を求めよ。
- (2) 点  $P$  における曲線  $C$  の接線の傾きを求めよ。

2

実数全体を定義域にもつ微分可能な関数  $f(t)$ ,  $g(t)$  が次の6つの条件を満たしているとする。

$$f'(t) = -f(t)g(t), \quad g'(t) = \{f(t)\}^2,$$

$$f(t) > 0, \quad |g(t)| < 1, \quad f(0) = 1, \quad g(0) = 0.$$

このとき、

$$p(t) = \{f(t)\}^2 + \{g(t)\}^2, \quad q(t) = \log \frac{1+g(t)}{1-g(t)}$$

とおく。

- (1)  $p'(t)$  を求めよ。
- (2)  $q'(t)$  は定数関数であることを示せ。
- (3)  $\lim_{t \rightarrow \infty} g(t)$  を求めよ。
- (4)  $f(T) = g(T)$  となる正の実数  $T$  に対して、媒介変数表示された平面曲線  $(x, y) = (f(t), g(t))$  ( $0 \leq t \leq T$ ) の長さを求めよ。

3

$xy$  平面上に、点  $A(a, 0)$ ,  $B(0, b)$ ,  $C(-a, 0)$  (ただし  $0 < a < b$ ) をとる。点  $A, B$  を通る直線を  $\ell$  とし、点  $C$  を通り線分  $BC$  に垂直な直線を  $k$  とする。さらに、点  $A$  を通り  $y$  軸に平行な直線と直線  $k$  との交点を  $C_1$  とし、点  $C_1$  を通り  $x$  軸に平行な直線と直線  $\ell$  との交点を  $A_1$  とする。以下、 $n = 1, 2, 3, \dots$  に対して、点  $A_n$  を通り  $y$  軸に平行な直線と直線  $k$  との交点を  $C_{n+1}$ 、点  $C_{n+1}$  を通り  $x$  軸に平行な直線と直線  $\ell$  との交点を  $A_{n+1}$  とする。

- (1) 点  $A_n, C_n$  の座標を求めよ。
- (2)  $\triangle CBA_n$  の面積  $S_n$  を求めよ。
- (3)  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{BA_n}{BC}$  を求めよ。

4

$n$  を正の整数とし、 $C_1, \dots, C_n$  を  $n$  枚の硬貨とする。各  $k = 1, \dots, n$  に対し、硬貨  $C_k$  を投げて表が出る確率を  $p_k$ 、裏が出る確率を  $1 - p_k$  とする。この  $n$  枚の硬貨を同時に投げ、表が出た硬貨の枚数が奇数であれば成功、というゲームを考える。

- (1)  $p_k = \frac{1}{3}$  ( $k = 1, \dots, n$ ) のとき、このゲームで成功する確率  $X_n$  を求めよ。
- (2)  $p_k = \frac{1}{2(k+1)}$  ( $k = 1, \dots, n$ ) のとき、このゲームで成功する確率  $Y_n$  を求めよ。
- (3)  $n = 3m$  ( $m$  は正の整数) で、 $k = 1, \dots, 3m$  に対して

$$p_k = \begin{cases} \frac{1}{3m} & (k = 1, \dots, m) \\ \frac{2}{3m} & (k = m+1, \dots, 2m) \\ \frac{1}{m} & (k = 2m+1, \dots, 3m) \end{cases}$$

とする。このゲームで成功する確率を  $Z_{3m}$  とするとき、 $\lim_{m \rightarrow \infty} Z_{3m}$  を求めよ。

5

整数の組  $(a, b)$  に対して2次式  $f(x) = x^2 + ax + b$  を考える。方程式  $f(x) = 0$  の複素数の範囲のすべての解  $\alpha$  に対して  $\alpha^n = 1$  となる正の整数  $n$  が存在するような組  $(a, b)$  をすべて求めよ。

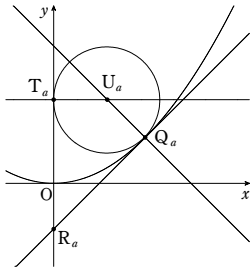
※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

1

$xy$  平面上の曲線  $y = \frac{1}{2}x^2$  に、点  $(a, \frac{1}{2}a^2)$  ( $a > 0$ ) で接する円のうち、 $y$  軸の正の部分にも接するものを  $S_a$  とおく。  $a$  が正の実数を動くときの  $S_a$  の中心の軌跡を  $C$ 、とくに  $S_1$  の中心を  $P$  とする。

- (1) 点  $P$  の座標を求めよ。
- (2) 点  $P$  における曲線  $C$  の接線の傾きを求めよ。

【解答例】



円  $S_a$  の中心を  $U_a(X, Y)$  とし、点  $(a, \frac{1}{2}a^2)$  を  $Q_a$  とする。

$Q_a$  における  $y = \frac{1}{2}x^2$  の接線の方程式は

$$y = a(x - a) + \frac{1}{2}a^2 \quad \text{つまり} \quad y = ax - \frac{1}{2}a^2.$$

よって、この接線と  $y$  軸の交点を  $R_a$  とすると

$$R_a\left(0, -\frac{1}{2}a^2\right).$$

ここで  $S_a$  と  $y$  軸の接点を  $T_a$  とすると、

$$\begin{aligned} T_a R_a &= Q_a R_a \\ &= \sqrt{(0 - a)^2 + \left(-\frac{1}{2}a^2 - \frac{1}{2}a^2\right)^2} \\ &= \sqrt{a^2 + a^4} = a\sqrt{a^2 + 1} \end{aligned}$$

から

$$Y = -\frac{1}{2}a^2 + a\sqrt{a^2 + 1}.$$

また、 $Q_a$  における  $y = \frac{1}{2}x^2$  の法線の方程式は

$$y = -\frac{1}{a}(x - a) + \frac{1}{2}a^2 \quad \text{つまり}$$

$$y = -\frac{1}{a}x + \left(\frac{1}{2}a^2 + 1\right).$$

この直線と  $y = Y$  の交点が  $U_a$  であることから

$$Y = -\frac{1}{a}X + \left(\frac{1}{2}a^2 + 1\right) \quad \text{より}$$

$$\begin{aligned} \frac{1}{a}X &= -Y + \left(\frac{1}{2}a^2 + 1\right) \\ &= \frac{1}{2}a^2 - a\sqrt{a^2 + 1} + \left(\frac{1}{2}a^2 + 1\right) \\ &= a^2 + 1 - a\sqrt{a^2 + 1} \quad \text{から} \\ X &= a^3 + a - a^2\sqrt{a^2 + 1}. \end{aligned}$$

- (1)  $(X, Y)$  に  $a = 1$  を代入し  $P$  の座標は

$$\left(2 - \sqrt{2}, -\frac{1}{2} + \sqrt{2}\right) \quad \text{答}$$

- (2)  $\frac{dX}{da} = 3a^2 + 1 - \left(2a\sqrt{a^2 + 1} + a^2 \cdot \frac{2a}{2\sqrt{a^2 + 1}}\right),$

$$\frac{dY}{da} = -a + \sqrt{a^2 + 1} + a \cdot \frac{2a}{2\sqrt{a^2 + 1}}$$

から、求める接線の傾きは、 $a = 1$  のとき

$$\begin{aligned} \frac{dY}{dX} &= \frac{\frac{dY}{da}}{\frac{dX}{da}} \\ &= \frac{-1 + \sqrt{2} + \frac{1}{\sqrt{2}}}{3 + 1 - \left(2\sqrt{2} + \frac{1}{\sqrt{2}}\right)} \\ &= \frac{-2 + 3\sqrt{2}}{8 - 5\sqrt{2}} \\ &= \frac{(-2 + 3\sqrt{2})(8 + 5\sqrt{2})}{(8 - 5\sqrt{2})(8 + 5\sqrt{2})} \\ &= \frac{14\sqrt{2} + 14}{14} \\ &= \sqrt{2} + 1 \quad \text{答} \end{aligned}$$

【参考】

(1) は、 $\overrightarrow{Q_a U_a}$  と  $(-a, 1)$  が同じ向きであることから、円の半径を  $r$  とおくと

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ_a} + \overrightarrow{Q_a U_a} \\ &= \left(a, \frac{1}{2}a^2\right) + r \cdot \frac{(-a, 1)}{\sqrt{a^2 + 1}}. \end{aligned} \quad \dots \textcircled{1}$$

この  $x$  成分は  $r$  に等しいので

$$\begin{aligned} a - \frac{ar}{\sqrt{a^2 + 1}} &= r \\ r \left(1 + \frac{a}{\sqrt{a^2 + 1}}\right) &= a \\ r(\sqrt{a^2 + 1} + a) &= a\sqrt{a^2 + 1} \\ r &= \frac{a\sqrt{a^2 + 1}}{\sqrt{a^2 + 1} + a}. \end{aligned}$$

このとき、 $\textcircled{1}$  は点  $U_a$  の位置ベクトルを表すので、 $P$  の座標を得ます。

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

**【配点例】(60点)**

(1)(計 30 点)

(ア) 点  $(a, \frac{1}{2}a^2)$  における接線と、半径  $Q_aU_a$

が垂直であることに **5点**

(イ)  $R_aQ_a = R_aT_a$  や、方向ベクトル  $(-a, 1)$  の長さの調節などの方針に **5点**

(ウ) P の  $x$  座標に **10点**,  $y$  座標に **10点**

(2)(計 30 点)

(エ)  $S_a$  の  $x$  座標の微分に **10点**

(オ)  $S_a$  の  $y$  座標の微分に **10点**

(カ) 結論  $\sqrt{2} + 1$  に **10点**

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

2

実数全体を定義域にもつ微分可能な関数  $f(t)$ ,  $g(t)$  が次の6つの条件を満たしているとする。

$$f'(t) = -f(t)g(t), \quad g'(t) = \{f(t)\}^2, \\ f(t) > 0, \quad |g(t)| < 1, \quad f(0) = 1, \quad g(0) = 0.$$

このとき、

$$p(t) = \{f(t)\}^2 + \{g(t)\}^2, \quad q(t) = \log \frac{1+g(t)}{1-g(t)}$$

とおく。

- (1)  $p'(t)$  を求めよ。
- (2)  $q'(t)$  は定数関数であることを示せ。
- (3)  $\lim_{t \rightarrow \infty} g(t)$  を求めよ。
- (4)  $f(T) = g(T)$  となる正の実数  $T$  に対して、媒介変数表示された平面曲線  $(x, y) = (f(t), g(t))$  ( $0 \leq t \leq T$ ) の長さを求めよ。

【解答例】

以下、 $f(t) = f$ ,  $f'(t) = f'$  などとも表す。

$$(1) \quad p(t) = f^2 + g^2 \text{ の両辺を } t \text{ で微分し} \\ p'(t) \\ = 2ff' + 2gg' \\ = 2f(-fg) + 2gf^2 \quad (f' = -fg, \quad g' = f^2 \text{ より}) \\ = 0 \quad \square$$

$$(2) \quad q(t) = \log(1+g) - \log(1-g) \text{ より}$$

$$q'(t) = \frac{g'}{1+g} - \frac{-g'}{1-g} \\ = \frac{g'(1-g+1+g)}{(1+g)(1-g)} = \frac{2g'}{1-g^2}.$$

$$(1) \text{ より } p'(t) = 0 \text{ であり, これと } p(0) = 1 \text{ から} \\ p(t) = 1 \text{ つまり } f^2 + g^2 = 1. \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

これより  $1 - g^2 = f^2$  であり, また  $g' = f^2$  から

$$q'(t) = \frac{2f^2}{f^2} = 2 \quad \square$$

$$(3) \quad q(0) = \log \frac{1+g(0)}{1-g(0)} = \log \frac{1}{1} = 0$$

および(2)から

$$q = 2t. \\ \text{これを变形し} \\ \log \frac{1+g}{1-g} = 2t$$

$$\frac{1+g}{1-g} = e^{2t}$$

$$g = \frac{e^{2t} - 1}{e^{2t} + 1}. \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

よって

$$\lim_{t \rightarrow \infty} g(t) = \lim_{t \rightarrow \infty} \frac{1 - e^{-2t}}{1 + e^{-2t}} = \frac{1 - 0}{1 + 0} = 1 \quad \square$$

(4) ①, ② から

$$f^2 = 1 - g^2 = 1 - \frac{(e^{2t} - 1)^2}{(e^{2t} + 1)^2} = \frac{4e^{2t}}{(e^{2t} + 1)^2},$$

$$f = \frac{2e^t}{e^{2t} + 1}. \quad (f > 0 \text{ より})$$

$f(T) = g(T)$  を解くと

$$\frac{2e^T}{e^{2T} + 1} = \frac{e^{2T} - 1}{e^{2T} + 1}$$

$$e^{2T} - 2e^T - 1 = 0$$

$$(e^T - 1)^2 = 2$$

$$e^T = 1 + \sqrt{2} \quad (T > 0 \text{ つまり } e^T > 1 \text{ より})$$

$$T = \log(1 + \sqrt{2}).$$

求める曲線の長さ  $L$  は

$$L = \int_0^T \sqrt{(f')^2 + (g')^2} dt$$

であり、

$$(f')^2 + (g')^2 \\ = (-fg)^2 + (f^2)^2 \quad (f' = -fg, \quad g' = f^2 \text{ より}) \\ = f^2(g^2 + f^2) \\ = f^2. \quad (\textcircled{1} \text{ より})$$

さらに  $f > 0$  から

$$\sqrt{(f')^2 + (g')^2} = f$$

より

$$L = \int_0^T \frac{2e^t}{1 + e^{2t}} dt.$$

ここで  $e^t = u$  とすると  $e^t dt = du$  から

$$L = \int_1^{1+\sqrt{2}} \frac{2}{1+u^2} du. \quad \left. \begin{array}{l} t \mid 0 \rightarrow \log(1+\sqrt{2}) \\ u \mid 1 \rightarrow 1+\sqrt{2} \end{array} \right.$$

さらに  $u = \tan \theta$  とすると  $du = \frac{d\theta}{\cos^2 \theta}$  であり、

$\tan \frac{3}{8}\pi = 1 + \sqrt{2}$  に留意し

$$L = \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{8}\pi} 2\cos^2 \theta \cdot \frac{d\theta}{\cos^2 \theta} \quad \left. \begin{array}{l} u \mid 1 \rightarrow 1+\sqrt{2} \\ \theta \mid \frac{\pi}{4} \rightarrow \frac{3}{8}\pi \end{array} \right.$$

$$= 2 \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{8}\pi} d\theta$$

$$= 2 \left[ \theta \right]_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{8}\pi} = \frac{\pi}{4} \quad \square$$

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

**【配点例】(60点)**

(1)計 5 点

(ア)  $p'(t)=0$  に 5 点

(2)計 10 点

(イ)  $p(t)=1$  に 5 点

(ウ)  $q'(t)=2$  に 5 点

(3)計 20 点

(エ)  $q(0)=0$  に 5 点

(オ)  $q(t)=2t$  に 5 点

(カ)  $g(t)=\frac{e^{2t}-1}{e^{2t}+1}$  に 10 点

(4)計 25 点

(キ)  $f(t)=\frac{2e^t}{e^{2t}+1}$  に 10 点

(ク)  $T=\log(1+\sqrt{2})$  に 5 点

(ケ)  $\tan\frac{3}{8}\pi=1+\sqrt{2}$  に 5 点

(コ) 結論  $\frac{\pi}{4}$  に 5 点

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

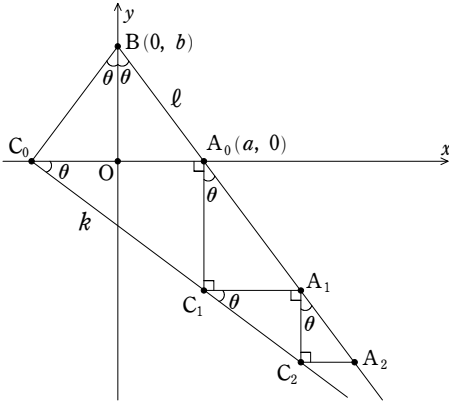
3

$xy$ 平面上に、点  $A(a, 0)$ ,  $B(0, b)$ ,  $C(-a, 0)$  (ただし  $0 < a < b$ ) をとる。点  $A, B$  を通る直線を  $\ell$  とし、点  $C$  を通り線分  $BC$  に垂直な直線を  $k$  とする。さらに、点  $A$  を通り  $y$  軸に平行な直線と直線  $k$  との交点を  $C_1$  とし、点  $C_1$  を通り  $x$  軸に平行な直線と直線  $\ell$  との交点を  $A_1$  とする。以下、 $n=1, 2, 3, \dots$  に対して、点  $A_n$  を通り  $y$  軸に平行な直線と直線  $k$  との交点を  $C_{n+1}$ 、点  $C_{n+1}$  を通り  $x$  軸に平行な直線と直線  $\ell$  との交点を  $A_{n+1}$  とする。

- (1) 点  $A_n, C_n$  の座標を求めよ。
- (2)  $\triangle CBA_n$  の面積  $S_n$  を求めよ。
- (3)  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{BA_n}{BC}$  を求めよ。

【解答例】

(1)  $A=A_0, C=C_0$  と表す。



$\angle A_0BO = \theta$  とすると、 $k=0, 1, \dots$  において

$$\angle C_k A_k C_{k+1} = \angle A_k C_{k+1} A_{k+1} = \frac{\pi}{2},$$

$$\angle A_k C_k C_{k+1} = \angle A_{k+1} A_k C_{k+1} = \theta$$

から、 $\tan \theta = t$  とすると

$$C_0 A_0 = 2a, \quad A_0 C_1 = 2at,$$

$$C_1 A_1 = 2at^2, \quad A_1 C_2 = 2at^3,$$

$$C_2 A_2 = 2at^4, \quad A_2 C_3 = 2at^5,$$

以下同様に

$$C_k A_k = 2at^{2k}, \quad A_k C_{k+1} = 2at^{2k+1}.$$

よって  $C_n$  の座標を  $(x_n, y_n)$  とすると

$$x_n = -a + (2a + 2at^2 + \dots + 2at^{2n-2})$$

$$= -a + 2a \cdot \frac{1-t^{2n}}{1-t^2}$$

$$= \frac{2ab^2}{b^2-a^2} \left\{ 1 - \left( \frac{a}{b} \right)^{2n} \right\} - a$$

$$= \frac{a(a^2+b^2)}{b^2-a^2} - \frac{2a^{2n+1}}{b^{2n-2}(b^2-a^2)},$$

$$y_n = -(2at + 2at^3 + \dots + 2at^{2n-1})$$

$$= -2at \cdot \frac{1-t^{2n}}{1-t^2}$$

$$= \frac{-2a^2b}{b^2-a^2} \left\{ 1 - \left( \frac{a}{b} \right)^{2n} \right\}$$

$$= -\frac{2a^2b}{b^2-a^2} + \frac{2a^{2n+2}}{b^{2n-1}(b^2-a^2)}.$$

よって  $C_n$  の座標は

$$\left( \frac{a(a^2+b^2)}{b^2-a^2} - \frac{2a^{2n+1}}{b^{2n-2}(b^2-a^2)}, -\frac{2a^2b}{b^2-a^2} + \frac{2a^{2n+2}}{b^{2n-1}(b^2-a^2)} \right) \quad \text{答}$$

また  $A_n$  の座標は  $(x_{n+1}, y_n)$  に等しいので

$$\left( \frac{a(a^2+b^2)}{b^2-a^2} - \frac{2a^{2n+3}}{b^{2n}(b^2-a^2)}, -\frac{2a^2b}{b^2-a^2} + \frac{2a^{2n+2}}{b^{2n-1}(b^2-a^2)} \right) \quad \text{答}$$

(2)  $S_n = \frac{1}{2} A_0 C_0 (b - y_n)$

$$= \frac{1}{2} \cdot 2a(b - y_n)$$

$$= a \left\{ b + \frac{2a^2b}{b^2-a^2} - \frac{2a^{2n+2}}{b^{2n-1}(b^2-a^2)} \right\}$$

$$= \frac{ab(a^2+b^2)}{b^2-a^2} - \frac{2a^{2n+3}}{b^{2n-1}(b^2-a^2)} \quad \text{答}$$

(3)  $BC_0 = BA_0$  から

$$\frac{BA_n}{BC} = \frac{BA_n}{BA_0} = \frac{\triangle CBA_n}{\triangle CBA_0} = \frac{S_n}{S_0}$$

が成り立ち、

$$S_0 = \frac{1}{2} \cdot 2a \cdot b = ab,$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \frac{ab(a^2+b^2)}{b^2-a^2} \quad \left( \left| \frac{a}{b} \right| < 1 \text{ から} \right)$$

ゆえ

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{BA_n}{BC} = \frac{ab(a^2+b^2)}{b^2-a^2} \cdot \frac{1}{ab} = \frac{a^2+b^2}{b^2-a^2} \quad \text{答}$$

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

**参考**

(1)では、 $x_n$ の漸化式を作る方法も有力です。

$C_n(x_n, y_n)$ は直線  $k: y = -\frac{a}{b}(x+a)$  上にあるので

$$y_n = -\frac{a}{b}(x_n + a).$$

$A_n(x_{n+1}, y_n)$ は直線  $l: y = -\frac{b}{a}x + b$  上にあるので

$$-\frac{a}{b}(x_n + a) = -\frac{b}{a}x_{n+1} + b$$

を整理し

$$x_{n+1} = \frac{a^2}{b^2}x_n + \frac{a(a^2 + b^2)}{b^2}$$

です。

**参考**

図を書くことで、 $A_n$ で  $n \rightarrow \infty$ としたときの極限点は、 $l$ と  $k$ の交点であることが予想できます。これを使うと、(3)の結論だけは出せます。

**【配点例】(60点)**

(1)(計 30 点)

(ア)  $x_n = -a + (2a + 2at^2 + \dots + 2at^{2n-2})$

または  $x_{n+1} = \frac{a^2}{b^2}x_n + \frac{a(a^2 + b^2)}{b^2}$

に相当する部分に **10点**

(イ)  $C_n$ の座標に **10点**

(ウ)  $A_n$ の座標に **10点**

(2)(計 10 点)

(エ)  $S_n$ に **10点**

(3)(計 20 点)

(オ) 結論に **20点**。ただし、(1), (2)が解けていないのに結論が出ている場合は **10点**。

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

4

$n$  を正の整数とし、 $C_1, \dots, C_n$  を  $n$  枚の硬貨とする。各  $k=1, \dots, n$  に対し、硬貨  $C_k$  を投げて表が出る確率を  $p_k$ 、裏が出る確率を  $1-p_k$  とする。この  $n$  枚の硬貨を同時に投げ、表が出た硬貨の枚数が奇数であれば成功、というゲームを考える。

(1)  $p_k = \frac{1}{3}$  ( $k=1, \dots, n$ ) のとき、このゲームで成功する確率  $X_n$  を求めよ。

(2)  $p_k = \frac{1}{2(k+1)}$  ( $k=1, \dots, n$ ) のとき、このゲームで成功する確率  $Y_n$  を求めよ。

(3)  $n=3m$  ( $m$  は正の整数) で、 $k=1, \dots, 3m$  に対して

$$p_k = \begin{cases} \frac{1}{3m} & (k=1, \dots, m) \\ \frac{2}{3m} & (k=m+1, \dots, 2m) \\ \frac{1}{m} & (k=2m+1, \dots, 3m) \end{cases}$$

とする。このゲームで成功する確率を  $Z_{3m}$  とするとき、 $\lim_{m \rightarrow \infty} Z_{3m}$  を求めよ。

【解答例】

一般の  $p_k$  についてのゲームの成功確率を  $W_n$  とする。硬貨  $C_1, \dots, C_{k-1}$  の表の枚数で判断したゲームの成功・不成功から、硬貨  $C_k$  の表裏によって決まるゲームの成功・不成功を考えると、 $k=2, 3, \dots$  のとき

$$W_k = (1-p_k)W_{k-1} + p_k(1-W_{k-1}) \quad \text{より}$$

$$W_k = (1-2p_k)W_{k-1} + p_k$$

$$W_k - \frac{1}{2} = (1-2p_k)\left(W_{k-1} - \frac{1}{2}\right). \quad \dots (*)$$

$W_0=0$  と定義すると、(\*) は  $k=1$  でも成り立つ。

(1)  $X_0=0$  と定義すると、(\*) および

$$1-2p_k = \frac{1}{3}$$

から

$$X_n - \frac{1}{2} = \left(\frac{1}{3}\right)^n \left(X_0 - \frac{1}{2}\right) = -\frac{1}{2} \left(\frac{1}{3}\right)^n \quad \text{より}$$

$$X_n = \frac{1}{2} \left\{ 1 - \left(\frac{1}{3}\right)^n \right\} \quad \text{答}$$

(2)  $Y_0=0$  と定義すると、(\*) および

$$1-2p_k = 1 - \frac{1}{k+1} = \frac{k}{k+1}$$

から

$$Y_k - \frac{1}{2} = \frac{k}{k+1} \left(Y_{k-1} - \frac{1}{2}\right) \quad \text{より}$$

$$Y_n - \frac{1}{2} = \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3} \cdots \frac{n}{n+1} \left(Y_0 - \frac{1}{2}\right) = -\frac{1}{2(n+1)}$$

$$Y_n = \frac{1}{2} \left(1 - \frac{1}{n+1}\right) \quad \text{答}$$

(3)  $k=1, \dots, m$  のとき  $1-2p_k = 1 - \frac{2}{3m}$ ,

$k=m+1, \dots, 2m$  のとき  $1-2p_k = 1 - \frac{4}{3m}$ ,

$k=2m+1, \dots, 3m$  のとき  $1-2p_k = 1 - \frac{2}{m}$

から、 $Z_0=0$  と定義すると (1) と同様に

$$Z_{3m} - \frac{1}{2} = \left(1 - \frac{2}{3m}\right)^m \left(1 - \frac{4}{3m}\right)^m \left(1 - \frac{2}{m}\right)^m \left(Z_0 - \frac{1}{2}\right).$$

ここで、自然数  $m$  と実数  $\alpha$  に対し

$$\left(1 - \frac{\alpha}{m}\right)^m = \left[ \left\{ 1 + \left(-\frac{\alpha}{m}\right) \right\}^{-\frac{m}{\alpha}} \right]^{-\alpha}$$

が恒等的に成り立つことと  $\lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}} = e$  から

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow \infty} Z_{3m} &= e^{-\frac{2}{3}} \cdot e^{-\frac{4}{3}} \cdot e^{-2} \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) + \frac{1}{2} \\ &= \frac{1}{2}(1 - e^{-4}) \quad \text{答} \end{aligned}$$

【参考】

漸化式を解かずに確率を求めることが可能です。

$q_k = 1 - p_k$  とすると、例えば  $n=3$  について

$$\begin{aligned} 1^3 &= (p_1+q_1)(p_2+q_2)(p_3+q_3) \\ &= p_1p_2p_3 + p_1q_2q_3 + q_1p_2q_3 + q_1q_2p_3 \\ &\quad + p_1p_2q_3 + p_1q_2p_3 + q_1p_2p_3 + q_1q_2q_3, \\ &= (q_1-p_1)(q_2-p_2)(q_3-p_3) \\ &= -(p_1p_2p_3 + p_1q_2q_3 + q_1p_2q_3 + q_1q_2p_3) \\ &\quad + p_1p_2q_3 + p_1q_2p_3 + q_1p_2p_3 + q_1q_2q_3, \\ &= p_1p_2p_3 + p_1q_2q_3 + q_1p_2q_3 + q_1q_2p_3 = W_3 \end{aligned}$$

より  $1 - (q_1 - p_1)(q_2 - p_2)(q_3 - p_3) = 2W_3$  から

$$W_3 = \frac{1}{2} \{ 1 - (q_1 - p_1)(q_2 - p_2)(q_3 - p_3) \}$$

です。



※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

**【配点例】(60点)**

(1)計 20 点)

(ア) 漸化式またはそれに相当する部分に  $\boxed{10}$  点

(イ)  $X_n$  に  $\boxed{10}$  点

(2)計 20 点)

(ウ) (\*) の変形またはそれに相当する部分に

$\boxed{10}$  点

(エ)  $Y_n$  に  $\boxed{10}$  点

(3)計 20 点)

(オ)  $Z_{3m}$  に  $\boxed{10}$  点。

(カ)  $\lim_{m \rightarrow \infty} Z_{3m}$  に  $\boxed{10}$  点。

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

5

整数の組  $(a, b)$  に対して 2 次式  $f(x) = x^2 + ax + b$  を考える。方程式  $f(x) = 0$  の複素数の範囲のすべての解  $\alpha$  に対して  $\alpha^n = 1$  となる正の整数  $n$  が存在するような組  $(a, b)$  をすべて求めよ。

**注意**

「方程式  $f(x) = 0$  の複素数の範囲のすべての解  $\alpha$  に対して  $\alpha^n = 1$  となる正の整数  $n$  が存在する」という文が、解釈が 2 通り可能です。つまり、 $f(x) = 0$  の解が  $\alpha_1, \alpha_2$  だとして

- (A) 「 $\alpha_1^n = 1$  かつ  $\alpha_2^n = 1$  となる自然数  $n$  が存在する」と、
- (B) 「 $\alpha_1^{n_1} = 1$  なる自然数  $n_1$  が存在し、かつ  $\alpha_2^{n_2} = 1$  となる自然数  $n_2$  が存在する」

です。この問題に対してはどちらでも結論は同じなのですが、途中の議論が若干異なります。両方の解釈で解答しておきます。

**【解答例 (a) の解釈】**

$f(x)$  は実数係数なので、 $f(x) = 0$  は

- [1] 実数解のみを持つ、
- [2] 共役な虚数解を持つ

のいずれかであり、どちらにせよ

$$\alpha^n = 1 \Rightarrow |\alpha| = 1$$

[1] のとき

$\alpha$  は実数より

$$|\alpha| = 1 \Leftrightarrow \alpha = \pm 1$$

であり、 $(+1)^2 = (-1)^2 = 1$  であるから、 $f(x) = 0$  の解が  $\{-1, -1\}, \{-1, 1\}, \{1, 1\}$  のときに限り題意を満たし、このとき解と係数の関係より

$$(a, b) = (2, 1), (0, -1), (-2, 1)$$

[2] のとき

$f(x) = 0$  の 2 解を  $\alpha, \bar{\alpha}$  ( $\alpha$  は虚数) とすると、

$$\alpha^n = 1 \Rightarrow |\alpha| = 1$$

$$\Leftrightarrow |\alpha|^2 = 1$$

$$\Leftrightarrow \alpha \bar{\alpha} = 1$$

であるから、解と係数の関係より  $b = 1$ 。

また  $f(x) = 0$  の判別式  $< 0$  より

$$a^2 - 4b < 0 \text{ から}$$

$$a^2 - 4 < 0.$$

$a$  は整数より

$$a = -1, 0, 1.$$

$a = -1$  のとき

$$f(x) = 0 \Leftrightarrow x = \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3},$$

$a = 0$  のとき

$$f(x) = 0 \Leftrightarrow x = \cos \frac{\pi}{2} \pm i \sin \frac{\pi}{2},$$

$a = 1$  のとき

$$f(x) = 0 \Leftrightarrow x = \cos \frac{2}{3}\pi \pm i \sin \frac{2}{3}\pi$$

であり、これらのどの解に対しても

$$x^{12} = 1$$

が成り立つので、題意を満たす。

以上より、求める  $(a, b)$  の組は

$$(a, b) = (-2, 1), (-1, 1), (0, 1), (0, -1), (1, 1), (2, 1) \quad \square$$

※ 東工大は解答や詳細の配点は発表していません。解答例と配点例は、STEPが独自に作成したものです。

【解答例 (b) の解釈】

$f(x)$  は実数係数なので、 $f(x)=0$  は

- [1] 実数解のみを持つ、
- [2] 共役な虚数解を持つ

のいずれかである。

[1] のとき

$\alpha$  が実数のとき、

$\alpha^n = 1$  なる自然数  $n$  が存在する  $\Leftrightarrow \alpha = \pm 1$  であるから、題意を満たすのは  $f(x)=0$  の解が  $\{-1, -1\}, \{-1, 1\}, \{1, 1\}$

のときに限り、解と係数の関係から

$$(a, b) = (2, 1), (0, -1), (-2, 1)$$

[2] のとき

$f(x)=0$  の 2 解を  $\alpha, \bar{\alpha}$  ( $\alpha$  は虚数) とすると、

$$\begin{aligned} \alpha^n = 1 &\Rightarrow |\alpha| = 1 \\ &\Leftrightarrow |\alpha|^2 = 1 \\ &\Leftrightarrow \alpha\bar{\alpha} = 1 \end{aligned}$$

であるから、解と係数の関係より  $b=1$ 。

また  $f(x)=0$  の判別式  $< 0$  より

$$\begin{aligned} a^2 - 4b < 0 &\text{ から} \\ a^2 - 4 < 0. \end{aligned}$$

$a$  は整数より

$$a = -1, 0, 1.$$

$a = -1$  のとき

$$f(x)=0 \Leftrightarrow x = \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3}$$

であり、

$$\left( \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3} \right)^6 = 1$$

より題意を満たす。

$a=0$  のとき

$$f(x)=0 \Leftrightarrow x = \pm i$$

であり、

$$(\pm i)^4 = 1$$

より題意を満たす。

$a=1$  のとき

$$f(x)=0 \Leftrightarrow x = \cos \frac{2}{3}\pi \pm i \sin \frac{2}{3}\pi$$

であり、

$$\left( \cos \frac{2\pi}{3} \pm i \sin \frac{2\pi}{3} \right)^3 = 1$$

より題意を満たす。

以上より、求める  $(a, b)$  の組は

$$(a, b) = (-2, 1), (-1, 1), (0, 1), (0, -1), (1, 1), (2, 1) \quad \text{答}$$

【配点例】(60点)

◇実数解についての検討 (計 25 点)

- (ア) 解が  $-1$  または  $1$  のみであることに 10点
- (イ)  $(a, b) = (2, 1), (0, -1), (-2, 1)$  について (正しい組の数 - 誤った組の個数)  $\times$  5点 ただしマイナスの点数にはしない。

◇虚数解についての検討 (計 35 点)

- (ウ)  $b=1$  に 10点
- (エ)  $a = -1, 0, 1$  に 10点
- (オ)  $(a, b) = (-1, 1)$  が適することに 5点
- (カ)  $(a, b) = (0, 1)$  が適することに 5点
- (キ)  $(a, b) = (1, 1)$  が適することに 5点